

平成30年度 第2回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：「望ましい学習習慣・生活習慣の確立に向けて」
- 2 日時：平成30年11月15日（木）
- 3 場所：久米南町中央公民館 大ホール（久米郡久米南町下弓削502-1）
- 4 参加者：学習習慣形成事業モデル校の教員、保護者、児童、生徒及び有識者（大学准教授）
- 5 知事挨拶

子どものときに身に付ける生活習慣・学習習慣は、学力に強く影響するだけではなく、大人になっても健康管理や仕事に影響するが、本県では、小学生のときの基本的な習慣の積み上げの部分が崩れている。その原因の一つが、スマホやテレビ、ゲームではないかと思う。本日の参加者のみなさんは、生活習慣や学習習慣の改善について、非常に先進的・意欲的な取り組みをしていると聞いており、ご意見を参考にしたい。

6 発言内容など

【それぞれの取り組みの概要など】

- ・町内小中学校の学習習慣の実態調査の結果、小学校5年生と中学校2年生を比べると、家庭学習の時間が1時間以上の割合は小学校5年生の方が多い。2時間以上になると明らかに小学校5年生が多い。母集団が少数であるため一概に言えないが、全県の傾向とよく似ている。
- ・調査を基に課題を3つ挙げた。① 宿題はしっかりやっているが、自主学習が不十分である。② スマホやメディアに割く時間が多い。③ 学習計画を立てる力が弱い。
- ・それらの課題に対する具体的な取り組みとしては、大きく以下の3つである。① 「久米南町版家庭学習のススメ」を全家庭に周知徹底し、保護者と共有。② ぐんぐんノート（自主学習様式）を町内で共有し、自主学習のアイデア集も掲載。③ スマホサミットの開催。
- ・本校では、部活動休養日である毎週水曜日に1時間多く勉強しようという取り組みを行っている。水曜日の学習時間を毎週調査し、各クラスで学習時間を競っている。多いクラスでは平均153分となっており、全てのクラスで平均60分を越え、確実に成果が出ている。
- ・小学生と中学生の大きな違いは部活動の拘束時間である。17時を過ぎて帰宅すると、学習に使える時間は少ない。
- ・部活動は、週4～5日練習しており、疲れが溜まる。
- ・野球を習っており、水曜日と木曜日の18～20時まで練習している。土日のどちらかは試合があり、試合がある日は勉強ができない。
- ・家庭学習への協力として、音読点検を行っており、スラスラ読めるか、句読点が意識でき

ているかなど確認している。メディア利用を控え、家庭での読書を勧めるための取り組みも行っている。

- ・保護者を対象に家庭学習についての実態調査を行ったところ、小学校の4～6年生の段階で既に宿題の提出率が100%に満たなくなっている。メディアに割く時間が長くなっており、深刻な状況と把握している。
- ・学習習慣のことだけではなく、様々なことについて、親の言うことは聞かないが、先輩の言うことはよく聞く。今回のスマホサミットでは、スマホの利用について、保護者がしっかりと関わりながら、子どもたち自身にどうスマホを利用し、ルールを提案させ、守らせることで、子どもたちの自信につなげることが必要であると感じた。
- ・ピアサポートという仲間同士の力でお互いに支えあっていくことを研究している。スマホサミットは、まさにピアサポートである。県のスマホサミットにも何回か参加しており、参加した子どもから、「課題意識を真剣に聞いてくれる仲間がいる」「いっしょに考えてくれる仲間がいる」「勇気をもらった」という声を聞いた。
- ・スマホサミットでの取り組みは、スマホの利用について、大人がこうしなさいと上から言うのではなく、子どもの中から意識を育てていくことにつながり、重要だと考えている。
- ・小学校高学年のアンケートで児童の45%が自分のスマホを所有していることが分かった。その他、ほとんどの児童も家族のスマホを使用している。ゲーム、動画の利用が多い。約半分の小中学生はスマホ使用のルールを作っているが、守っている割合は小学生で80%、中学生で20%台だ。
- ・小学生のときは一人完結で利用しているが、中学生になると友人とのオンラインゲームで利用しており、利用制限のルールを守れていない実態がある。
- ・子どもたちの中では、友人関係は死活問題である。県が21時でスマホをやめようと打ち出した際、子どもの中にもいろんな意見があり、「助かった」という声もあった。
- ・テレビの視聴時間等を制限する「メディアコントロール週間」を年3回実施していたところ、もっと増やしてほしいという保護者からの声があり、今年度から1回増やして実施している。
- ・友達とするオンラインゲームなどのやめ時の判断が難しい。やめるときはマイク機能で「そろそろやめよう」と言う。
- ・ゲームメーカーの元社員から「今、子どもたちからスマホを取り上げるのは、水食料を止めるのと同じで、なくすのではなく上手につきあうことを考えてはどうか」と言われた。ストップスマホ！キャンペーンも、スマホを有効に活用した勉強方法を考えた方が、無理なくできるのではないかと思う。
- ・わが家では、スマホの使用時間は基本30分としている。しかし、気がつけば過ぎていることもあり、親がしっかりコントロールしなければと思う。
- ・子どもは親を見ている。仕事のツールとしてスマホを使う機会が多いが、子どもから見れば大人は好きに使っており、遊んでいるのと同じ。わが家は親のスマホと子どものタブレ

ットを同期して使用制限を掛けているが、いつも子どもに自分の行動が見られているという、親の意識改革が必要だと感じている。

- ・ P T Aの大会に招かれた講師が、「成功するために集中力が大事であるが、今の子どもはスマホに集中力が向いている」と言っていた。スマホへの向き合い方を、地域の方を巻き込みながら地域全体で取り組んでいきたい。
- ・ スマホの使い方について、これが一番という策はない。目標は子どもたち自身が「自分でコントロールできています」という状態である。子どもたちが自律的に判断してスマホ利用をコントロールできていたら、褒めてあげてほしい。
- ・ 最初から自分の力でコントロールするのは難しいため、守れるルールから始めて、成功体験を積ませることが心理学的には大切である。
- ・ まずは、今の生活習慣やスマホ利用の状況を観察して、どういう方法がよいのかを探っていく必要がある。
- ・ 習慣は、継続しないと身につかない。現在は「家庭学習を頑張ろう」という意識の芽生えが見られるが、これからはこの取り組みをどう継続していくかが課題だ。
- ・ 早速今日から、よい行いについては、子どもを褒めようと思うが、日本人は褒めるのが苦手だ。逆に褒めすぎて、子どもがそれを逆手に取るようなこともある。中学生ぐらいになると、何が目的だと勘ぐるようなこともある。うまくできるかというのはあるが、まずはスタートラインとして始めてみたい。
- ・ スマホのリスクや影の部分を使い過ぎるが、貴重な自分の時間をより良く使うように導くことが大事である。自分自身やりたいことがあり、そのためにスマホを活用したいという気持ちにすることが、核心であると考えている。
- ・ 勉強が楽しくなること、結果を出す実感を積み重ねることは、より良い生活習慣の確立に向けた有効な方法である。

【知事まとめ】

- ・ 勉強が将来何の役に立つのだろうという悪魔の問いに、エネルギーを吸い取られないことが大事である。
- ・ 大人になると、5教科だけでなく、学習してきたありとあらゆるものが自分のためになっていることが分かってくると思う。
- ・ 親として、子どもたちに、そういうことを伝える必要があるのだと思う。久米南町の「スマホサミット」や「ぐんぐんノート」などの良い取り組みを県下に広げていきたい。
- ・ 子どもたちの意欲を引き出し、自信をつけさせ、自分をコントロールできるようになることが大切だと思う。